

## 2017年3月期決算に関する主な質問

2017年6月30日

セガサミーホールディングス株式会社

### <2017年3月期実績について>

#### ■全体について

Q：2016年3月期比で増収、増益になった要因は？

A：主に遊技機事業において、実績あるシリーズ機を中心に複数タイトルを販売したほか、エンタテインメントコンテンツ事業全般が好調に推移いたしました。

Q：2017年3月期第4四半期が損失計上となった要因は？

A：第4四半期においては、これまでの四半期と比較して、大型タイトル等の販売が少なかったことや、主にエンタテインメントコンテンツ事業において、タイトルの評価減等を行った結果、第4四半期単独では損失計上となりました。

### <2018年3月期計画について>

#### ■全体について

Q：2018年3月期の計画の上期・下期のバランスは？

A：遊技機事業においては、上期を中心に主力タイトル等の販売を予定していることから、上期寄りの計画となります。エンタテインメントコンテンツ事業については、下期に新作タイトル等の発売を予定していることから下期寄りの計画となります。連結では遊技機事業の割合が大きいため、上期寄りの計画となります。

Q：増収・減益を計画する要因は？

A：主にエンタテインメントコンテンツ事業のデジタルゲーム分野において、前期比で新作タイトルの投入数が増加することから増収を計画する一方で、グループ本社機能の集約に伴う費用発生等を見込んでいることや、市場環境が不透明な遊技機事業で保守的な利益水準を計画していることから減益予想となっております。

#### ■遊技機事業について

Q：パチスロ遊技機の販売台数が2017年3月期比で減少する要因は？

A：パチスロ遊技機では、2017年10月以降、新たな自主規制が適用されることに伴い、販売台数が減少することを計画しております。

Q：2018年3月期に前期比で増収・減益を計画している要因は？

A：パチスロ遊技機では、2017年10月以降、新たな自主規制が適用されることに伴い、販売台数が減少することを計画しております。一方で、パチンコ遊技機では主力タイトル『**ぱちんこCR北斗の拳7 転生**』を含む複数タイトルの投入を行うことにより、販売台数の増加を計画いたします。しかしながら、パチスロ・パチンコの販売構成や、市場環境に鑑み、利益面では保守的な利益水準を計画しております。

## ■エンタテインメントコンテンツ事業について

Q：増収を計画する一方で、減益となる要因は？

A：デジタルゲーム分野での新作タイトルの投入数の増加や、パッケージゲーム分野においてPC向けタイトルの拡充をはかることから、増収を計画している一方で、アミューズメント機器分野において新作タイトルの投入数が減少することや、グループ本社機能の集約に伴う費用発生等を見込むことから減益を計画しております。

## ■リゾート事業について

Q：減益計画となる要因は？

A：今後の国内IR(統合型リゾート)の実現に向けた調査費用等の増加を計画しております。

## <2020年3月期に向けたRoad to 2020について>

### ■全体について

Q：2020年3月期中期業績目標(営業利益率30%、ROA5%)のセグメント別の内訳は？

A：遊技機事業においては営業利益率30%、エンタテインメントコンテンツ事業においては売上3,000億円、営業利益300億円、営業利益率10%、リゾート事業においてはIR事業の成功及びブランド認知の向上を掲げております。

### ■遊技機事業について

Q：目標達成のための施策は？

A：遊技機事業では、リユース対象率の向上や部材共通化の促進等によりリユースの推進に取り組むほか、共通筐体・部品ユニットの共同開発を通して、業界プラットフォームの構築に取り組みます。また、タイトルの開発期間を短縮化することや品質評価プロセスの強化を行い、旬な時期にタイトル投入が出来るよう開発効率の改善に取り組んでまいります。

### ■エンタテインメントコンテンツ事業について

Q：目標達成のための施策は？

A：エンタテインメントコンテンツ事業では、グローバルヒットタイトルの創出を目標としており、これまでの分散投資から集中投資へと移行しております。また、今後はIPスタジオ別に責任を持つことで、当社の保有IPを有効に活用していくほか、各地域拠点の機能統合を行い、海外でのタイトルリリースも早期にできる体制へと移行を行うことで、グローバルヒットタイトルの創出を目指してまいります。

### ■リゾート事業について

Q：目標達成のための施策は？

A：国内におきましては、引き続き「フェニックス・シーガイア・リゾート」において滞在型観光のハブとなるリゾートホテルの運営や国際レベルの会議にも対応できる大型会議場の運営等を通してノウハウ取得に取り組むほか、海外においては韓国仁川において「パラダイスシティ」をオープンし、カジノ施設の開発・運営ノウハウの取得に取り組んでまいります。

以上

※本資料における業績見通し等の内容は、現時点で入手可能な情報に基づき、経営者が判断したものであります。

従って、これらの内容はリスクや不確実性を含んでおり、将来における実際の業績は、様々な影響によって大きく異なる結果となりうることを予めご承知おき下さい。